

<地域ネットワーク部会：今年度事業計画解説および進捗状況について>

1．乳がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1 - 1 乳がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。
- 1 - 2 乳がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
- 1 - 3 評価を行う。

実績：那覇市立病院で3例、クリティカルパスの運用を開始した。

評価：7点

次年度：各専門施設で10例クリティカルパスの運用を開始する。

2．胃がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1 - 1 胃がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。
- 1 - 2 胃がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
- 1 - 3 評価を行う。

実績：那覇市立病院で2例、クリティカルパスの運用を開始した。

評価：7点

次年度：各専門施設で10例クリティカルパスの運用を開始する。

3．肺がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1 - 1 肺がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。
- 1 - 2 肺がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
- 1 - 3 評価を行う。

実績：クリティカルパスの作成はしたが運用は0例だった。

評価：5点

次年度：各専門施設で10例クリティカルパスの運用を開始する。

4．肝がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1 - 1 肝がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。
- 1 - 2 肝がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
- 1 - 3 評価を行う。

実績：クリティカルパスの作成はしたが運用は0例だった。

評価：5点

次年度：各専門施設で10例クリティカルパスの運用を開始する。

5．大腸がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1 - 1 大腸がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。
- 1 - 2 大腸がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
- 1 - 3 評価を行う。

実績：那覇市立病院で1例、クリティカルパスの運用を開始した。

評価：7点

次年度：各専門施設で10例クリティカルパスの運用を開始する。

6. 5大がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。

各地区や希望される医療機関で、年に10回を目標に5大がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。

実績：10月12日に 沖縄県医師会で研修会を行い、10月27日 北部地区医師会、11月29日 琉大病院で院内研修会を行った。3月までに各施設で最低1回院内研修会を行う予定。

評価：5点

次年度：専門施設に登録されている15施設すべて、院内研修会を実施する。

7. 沖縄県がん診療連携協議会のホームページにがん地域連携クリティカルパスの一覧を掲載し、共有する。また、沖縄県がん地域連携クリティカルパス事業への参加医療機関の一覧やワーキンググループの活動報告などを公開する。

実績：沖縄県がん診療連携協議会のHP (<http://www.okican.jp/>) に5大がん地域連携パスを掲載した。その他にパス事業への申込書、同意書のひな形、パス事業への参加医療機関一覧を公開した。現在、沖縄県5大がん地域連携パス(雛形)の全県に渡る普及を図るため、専門施設15施設、かかりつけ施設46施設がこの取組みにご協力いただける医療機関として申込まれている。

評価：10点

次年度：HPの掲載は引き続き継続し、参加医療機関を募る。

8. がん地域連携クリティカルパス事業に参加する医療機関を対象に、かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するためにアンケート調査を行う。

実績：未実施

評価：1点

次年度：かかりつけ施設にアンケート調査を行い、受け入れ状況を把握し、パスを円滑に運用する。

9. 5大がん以外のがんについての地域連携クリティカルパスを作成する。

実績：11月に前立腺がんワーキンググループを設置し、12月に第1回作成ワーキングを行い、前立腺がんクリティカルパス(案)を作成中。

評価：8点

次年度：前立腺がん地域連携クリティカルパスの運用を開始する。それ以外のがんについてもクリティカルパスの作成をする。

10. 学会および厚生労働省の研究班に積極的に参加し、情報収集を行うとともに、地域連携クリティカルパスについて学会等で報告する。

実績：第12回日本医療マネジメント学会学術集会(発表)

平成22年6月11日(木)~12日(金) 場所：札幌コンベンションセンター

発表者：仲本 奈々

演題「沖縄県における全県統一5大がん地域連携クリティカルパスの取り組み」

第11回日本クリニカルパス学会学術集会

平成22年12月3日(金)~4日(土) 場所：愛媛ひめぎんホール

発表者：仲本 奈々

演題「沖縄県における全県統一5大がん地域連携クリティカルパスの取り組み」

第111回沖縄県医師会医学会総会

平成22年12月12日(日) 場所：沖縄県医師会館

発表者：宮里 浩

演題「がん診療における病診・病病連携について

～沖縄県がん診療連携クリニカルパス運用開始後の動きを踏まえて～」

第2回沖縄県医師会県民健康フォーラム がん医療の今

平成23年2月5日(土) 場所：パシフィックホテル沖縄(万座の間)

発表者：宮里 浩

演題「かかりつけ医と専門施設の両方で診る安心のがん医療」

評価：10点

次年度：引き続き継続する。

平成22年度事業の行動計画

沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

no.	事業名	事業内容	担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	【全体イベント】			5/17 幹事会	6/11 ゆんたく会 協議会 講演会 6/12	6/16 幹事会	8/16 ゆんたく会 協議会 講演会 9/4	9/3 ゆんたく会 協議会 講演会 9/4	9/17 幹事会	10/25 幹事会	11/19 ゆんたく会 協議会 講演会 11/20	12/15 部会	1/17 幹事会	2/4 ゆんたく会 協議会 講演会 2/5	2/2 部会	
	【部会イベント】			4/14部会	5/12 部会	6/2 部会 運用ワーキング	7/7 部会	8/4 部会	9/1 部会	10/6 部会	12/1 部会	12/15 部会	1/12 部会	2/2 部会	3/2 部会	
1	乳がん地域連携クリティカルバスの作成	乳がん地域連携クリティカルバスの運用を開始する。乳がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	宮国(グループ長)			平成21年3月に運用ワーキンググループを設置し、4月より順次運用を開始する予定。12月に評価を行う。										
2	胃がん地域連携クリティカルバスの作成	胃がん地域連携クリティカルバスの運用を開始する。胃がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	下地(グループ長)			平成21年3月に運用ワーキンググループを設置し、4月より順次運用を開始する予定。12月に評価を行う。										
3	肺がん地域連携クリティカルバスの作成	肺がん地域連携クリティカルバスの運用を開始する。肺がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	照屋(グループ長)			平成21年3月に運用ワーキンググループを設置し、4月より順次運用を開始する予定。12月に評価を行う。										
4	肝がん地域連携クリティカルバスの作成	肝がん地域連携クリティカルバスの運用を開始する。肝がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	白石(グループ長)			平成21年3月に運用ワーキンググループを設置し、4月より順次運用を開始する予定。12月に評価を行う。										
5	大腸がん地域連携クリティカルバスの作成	大腸がん地域連携クリティカルバスの運用を開始する。大腸がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	佐村(グループ長)			平成21年3月に運用ワーキンググループを設置し、4月より順次運用を開始する予定。12月に評価を行う。										
6	前立腺がん地域連携クリティカルバスの作成	前立腺がん地域連携クリティカルバスの作成を開始する。乳がん地域連携クリティカルバスの改訂を行う。評価を行う。	町田(グループ長)													平成22年12月に作成ワーキンググループを設置し、バスの作成を開始した。
7	5大がん地域連携クリティカルバス研修会を企画開催する。	各地区や希望される医療機関で、年に10回を目標に5大がん地域連携クリティカルバス研修会を企画開催する。	佐村							今年度に10回の5大がん地域連携バスの研修会を企画開催する。						
8	ホームページにがん地域連携クリティカルバスの一覧を掲載し、共有する。	沖縄県がん地域連携クリティカルバス事業への参加医療機関の一覧やワーキンググループの活動報告などを公開する。	宮国													
9	アンケート調査を行う。	がん地域連携クリティカルバス事業に参加する医療機関を対象に、かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲の調査を行う。	髙下													
10	5大がん以外のがんについての地域連携クリティカルバスを作成する。		宮里													平成22年10月より、5大がん以外のがんの地域連携クリティカルバスの作成を開始する
11	情報収集、学会報告を行う。	学会および厚生労働省の研究班に積極的に参加し、情報収集を行うとともに、地域連携クリティカルバスについて学会等で報告する。	増田			平成21年6月11日日本医療マネジメント学会										平成21年12月3日日本クリニカルバス学会

平成 22 年度第 6 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日 時 : 平成 22 年 10 月 6 日 (水) 18:00 ~ 19:00

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 8 名

出席者 : 4 名

照屋 淳 (医師会病院) 佐村 博範 (琉大病院) 下地 英明 (琉大病院) 仲本 奈々 (琉大病院)

陪席者 : 呉屋 葉子 (琉大病院がんセンター)

[報告事項]

1. 平成 22 年度第 5 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨 (資料 1)
平成 22 年度第 5 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨が承認された。
2. 5 大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて (資料 2)
事務局より、県立病院と県立八重山病院にかかりつけ医側になって頂くよう、現在調整中と報告があった。
3. 前立腺癌ワーキンググループの設置について (資料 3)
事務局より、沖縄県医療機能調査の結果から手術症例の多い 6 施設に構成員を推薦するようにと依頼文を送付していることが報告された。

[協議事項]

1. 平成 22 年度 5 大がん地域連携クリティカルパス研修会について (資料 4)
 - ・ 10 月 12 日 (水) 沖縄県医師会にて研修会が行われること、また、10 月 27 日には北部地区医師会病院にて院内研修が行われることが報告された。
 - ・ 11 月 18 日 (木) 琉大病院で院内研修が行われることが決定した。
2. 今年度の中間報告と評価 (資料 5)
琉大病院ではシエントとミーティングを行い連携パスの役割分担を行っていることが報告があった。
3. 年度目標 (事業計画の見直し) (資料 5)
 - (1) 患者さんに 5 大がん地域連携クリティカルパスのパンフレットを渡して、説明の時間を短縮してはどうかとの意見があった。パンフレットは事務局で作成し各病院で共有することが承認された。
 - (2) がん地域連携クリティカルパス事業に参加する医療機関を対象に、かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するために、アンケート調査を年度内に実施することが承認された。
 - (3) 年度計画に、「がん地域連携クリティカルパス事業に参加している専門施設に対して、運用に向けてどういった準備を行っているか、アンケート調査を行う」という 11 番目の計画を追加してはどうかとの意見があった。
4. 沖縄県がん診療連携協議会での部会報告について (資料 6)
部会での活動報告は紙面で行い、協議会にて審議したいことがあれば部会で協議しその都度申し出ることが承認された。
5. 次回の協議会に向けて、協議事項の検討 (資料 6)
年度計画に追加したい 11 番目の計画を報告する。専門施設に行くアンケートについて具体的な調査項目をあげて、報告することとなった。
6. 次回の開催日程について

平成 22 年度第 7 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

次回 平成 22 年 11 月 10 日 (水) 18:00 ~

場所: がんセンター

平成22年度第3回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループ

次回 平成22年12月1日(水) 19:00~

場所:管理棟2階 小会議室

7.その他

部会を行う曜日について検討。ミーリングで、部会委員とWG委員に都合のいい曜日のアンケート調査を行うこととなった。また、沖縄県がん診療連携協議会はどこの事業で、どういった事業を行っているのか、役割などを明確にする必要があるとの意見があった。さらに、専門施設でWGに参加していない4病院(同仁病院・南部徳洲会病院・沖縄赤十字病院・与那原中央病院)に、WG構成員を2名ずつ推薦するよう施設長宛てに依頼文を送ることとなった。

平成 22 年度第 7 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日 時 : 平成 22 年 12 月 1 日 (水) 18:00 ~ 19:30

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 8 名

出席者 : 4 名

照屋 淳 (医師会病院) 宮里 浩 (那覇市立) 増田 昌人 (琉大病院) 仲本 奈々 (琉大病院)

陪席者 : 呉屋 葉子 (琉大病院がんセンター)

[報告事項]

1. 平成 22 年度第 6 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨 (資料 1)
平成 22 年度第 6 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨が承認された。
2. 5 大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて (資料 2)
事務局より、新たに 3 病院が追加されたことが報告された。
3. 前立腺がん作成ワーキンググループ構成員の決定と 5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループ構成員の新規追加について (資料 3)
事務局より、前立腺がん作成ワーキンググループ構成員が 4 名決定したことで、5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループに 4 病院 (同仁病院・南部徳洲会病院・沖縄赤十字病院・与那原中央病院) の医師と地域連携室職員が新規構成員に追加されたことが報告された。
4. 地域ネットワーク部会・WG 希望曜日の集計結果について (資料 4)
WG と部会を行う曜日について、見直して欲しいと意見があり、WG メンバーにアンケート調査を行った所、多数決で水曜日になった事が報告された。

[協議事項]

1. 患者用 5 大がん地域連携クリティカルパスのパンフレットについて (別紙資料)
事務局より、患者さんにパス適用の話をする際に、説明用のパンフレット (試作版) を作成したことが報告された。
宮里委員より、「広告用のパンフレットとしては良いが、説明は本物を見せた方がいい」と意見があり、増田委員より「専門施設か外科の窓口において、チラシとして配布してはどうか」と意見があった。
他、タイトルや内容などに修正があるので、修正後、部会委員にメールで送付し、再度確認して頂くこととなった。
2. 平成 22 年度 5 大がん地域連携クリティカルパス研修会について (資料 5)
北部地区医師会の照屋委員より、前回の研修会は院内の先生方があまり参加していなかったため、今年度中に再度研修会を行う予定と報告があった。
那覇市立、中部病院はあと 1 回、琉大はあと 2 回院内研修を行い、残りは専門施設の沖縄赤十字病院、浦添総合に院内研修会を行ってもらってはどうかと意見があった。
3. 専門施設へのアンケート項目について (資料 6)
事務局より、前回の部会で年度計画に「がん地域連携クリティカルパス事業に参加している専門施設に対して、運用に向けてどういった準備を行っているか、アンケート調査を行う」を追加してはどうかと意見があったので、事務局より、アンケートのたたき台を用意した。
たたき台には追加・修正等が必要なので、追加・修正後、WG にかけて委員の先生方から意見を

募ることとした。また、アンケートは専門施設の連携職員へ送付することとした。

4．平成22年度第3回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループ協議事項について（資料7）

今回のWGの協議事項に、クリティカルパスの運用が進まない理由について協議してはどうかと意見があった。但し、WGで一から問題点や解決策を求めるのではなく、まずは琉大の委員で話し合いを設け、クリティカルパスの運用が進まない問題点と解決策の意見を出し合い、そこで出た意見を15日のWGに出して協議するのはどうかと意見があった。

そこで、12月10日に琉大の委員で話し合いを設けることとした。

5．その他

事務局より、患者基本情報に公印と医師の印とないと、施設基準の監査でかかるかもしれないので、作成する際は公印と医師の印鑑を押印して欲しいと依頼があった。

平成 22 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会
5 大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨

日 時 : 平成 22 年 12 月 15 日 (水) 19:00 ~ 19:30

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 管理棟 3 階 大講義室

構成員 : 40 名

出席者 : 25 名

平良 豊 (浦添地区医師会) 喜納 美津男 (那覇市医師会) 照屋 淳 (医師会病院) 仲村 実和子 (医師会病院) 新崎 博美 (中部病院) 宮里 浩 (市立病院) 宮国 孝男 (市立病院) 蔵下 要 (浦添総合) 川畑 勉 (沖縄病院) 大田 守仁 (豊見城中央病院) 宇良 正一郎 (同仁病院) 大田 治 (与那原中央) 小浜 徹明 (与那原中央) 下地 光好 (南部徳洲) 大嶺 靖 (沖縄赤十字) 志良堂 清憲 (沖縄赤十字) 下地 英明 (琉大病院) 白石 祐之 (琉大病院) 照屋 孝夫 (琉大病院) 佐村 博範 (琉大病院) 國仲 弘一 (琉大病院) 新垣 久美子 (琉大病院) 武富 孝子 (琉大病院) 増田 昌人 (琉大病院) 仲本 奈々 (琉大病院)

陪席者 : 呉屋 葉子 (がんセンター)

1. 平成 22 年度第 2 回 5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨 (資料 1)
平成 22 年度第 2 回 5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5 大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて (資料 2)
新たに、専門施設に 1 病院・かかりつけ医に 4 病院が追加されたことが報告された。
3. 前立腺がん作成ワーキンググループ構成員の決定と 5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループ構成員の新規追加について (資料 3)
前立腺がん作成ワーキンググループ構成員が 5 名決定したことと、5 大がん地域連携パス運用ワーキンググループに 4 病院 (同仁病院・南部徳洲会病院・沖縄赤十字病院・与那原中央病院) の医師と地域連携室職員が新規構成員に追加されたことが報告された。
4. 地域ネットワーク部会・WG 希望曜日の集計結果について (資料 4)
運用 WG の開催曜日のアンケートを行った。集計の結果、これまで通り水曜日となった。
5. 琉大で行った院内研修会の報告について
佐村委員より、11 月 29 日に琉大で院内研修を行ったこと報告がされた。
医師・看護師・地域連携室職員など合わせて 13 人が参加。地域連携パスの概要や必要性、実際の運用の仕方などについて話したこと、運用が進まない理由について話したことが報告された。
6. 各施設での地域連携パス適用事例について
市立病院の宮里委員より、地域連携パス適用事例について報告があった。
今現在で、胃癌が 2 例、大腸癌が 1 例、乳癌が 3 例、合計 6 例のパスの適用をしているが、送り出すだけで、まだキャッチボールと言う体制は行っていない。
運用は専用のテンプレートを作り、それを医療情報の電子カルテに立ち上げられるようにしている。データの輸入はドクター映像で外来受診する際に一緒に入力するような体制を作っている。
今後、数が増えて来たら患者さんの自宅近くの、かかりつけ医に登録している施設で診て頂くようにして行きたいと報告があった。

[協議事項]

1. 地域連携パス運用の運用に関するグループ討議について (資料 5)
先日、琉大病院で「5 大がん地域連携クリティカルパス」の運用についてグループ討議を行った。それをもとに運用ワーキングでも稼働数が増えない理由と解決策を討議したところ、以下の意見があった。

なぜ連携パス稼働数が増えないのか？

- ・拠点病院・準拠点病院にも入れなくて、かなりの労力も人員も必要なわりには、メリットがない
- ・院内で温度差がある。考え方を浸透させなければいけない。
- ・パスがあること自体、院内スタッフが知らない。
- ・大きいところ（東京など）が運用しないと、病院や患者さんに浸透しない。

何をすればうまく動くのか？

- ・すべての対象疾患の患者さんにチラシを渡して、希望の患者さんに適用するのはどうか。
- ・病院のパンフレットとして患者さんに渡せば、病院スタッフにも浸透する。
- ・民間の方が、フットワークが軽いので運用しやすいのではないか。
- ・内服がなければ基本的に運用しやすい。
- ・公立病院からすぐにかかりつけ医に送り出すのではなく、2段階で行ってみてはどうか。
例えば、大学病院 専門施設 かかりつけ医
- ・私のカルテを運用していけば、自然に地域連携パスというのが広がって行くのではないか。
- ・現行のパスが使えるすべての症例に連携に乗らなくてもパスを常用していく。

2．患者用5大がん地域連携クリティカルパスのパンフレットについて（別紙資料）

パスの普及のために、案内用パンフレットのたたき台を作成したことが報告された。

パンフレットにはパスについての説明と、連携パスの流れ、私のカルテの事が記載されている。

意見などあれば、後日伺うこととなった。

3．専門施設へのアンケート項目（資料6）

5大がん地域連携クリティカルパスの稼働数がなかなか増えない現状を受けて、専門施設として申し込みのある施設に対して現況調査のアンケートを行うことが承認された。

4．平成22年度5大がん地域連携クリティカルパス研修会について

各専門施設で、今年度中に1回は院内研修会を行ってほしいと要望があった。希望があれば講師の派遣を行うことが報告された。

5．その他

専門施設は、年度内に1例はパスを適用してほしいと依頼があった。

今後、化学療法のパスも作成して行くこととなった。

6．次回の開催について

次回は平成23年3月2日（水）に平成22年度第4回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキングを行うことが承認された。